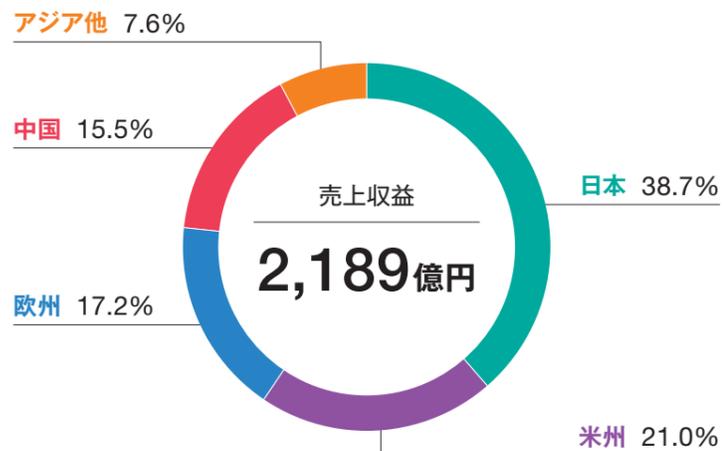


地域別事業レビュー

THKは成長戦略においてグローバル展開を標榜する中、日本・米州・欧州・アジアの4極において「需要地における製販一体体制」を構築しています。2020年12月期は、新型コロナウイルス感染症の影響が各地で広がる中、お客様との非対面のコミュニケーションプラットフォーム「Omni THK」の活用を積極化させるとともに、日本において製造業向けIoTサービス「OMNI edge」についてLMガイド、ボールねじ向けの販売を開始しました。生産面では、新型コロナウイルス感染症の影響により需要が低位に推移する中、自動化・ロボット化やIoTを活用した取り組みにより生産性の向上を図り、需要の回復期に備えました。2021年12月期も各地域でOmni THKをはじめとする販売体制の強化に加え、OMNI edgeの展開を進めるとともに、柔軟かつ強固な生産体制の構築を加速していきます。さらに、THK DXプロジェクトの推進によりグループ全体の生産性向上を図っていきます。



日本

事業環境と業績概要

売上収益は前期比22.6%減少し、846億円となりました。

日本では、産業機器事業において、工作機械向けの需要は引き続き低位に推移した一方、エレクトロニクス関連の需要は回復基調で推移しました。輸送機器事業においては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、主に2020年4~6月期における当社製品の生産、出荷に影響が生じました。これらの結果、減収となりました。

2020年12月期の取り組み

● 販売面

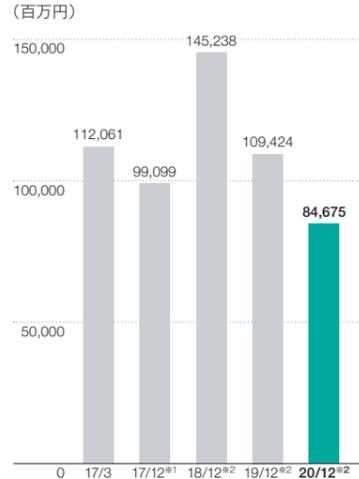
デジタルテクノロジーが進展する中、さらなる販売の拡大を図るべく、Omni THK

において新たな機能を展開しました。製造業向けIoTサービスOMNI edgeにおいては、2020年1月よりLMガイド向けの販売を開始し、11月には第二弾として、ボールねじ向けをラインナップに追加しました。さらに第三弾として回転部品向けの無償トライアルの募集を開始しました。

● 生産面

コロナ禍で需要が厳しい状況の中、徹底的なコストコントロールにより減益幅の抑制を図る一方、需要の回復期により高いアウトプットを産み出すべく、自動化・ロボット化やデジタル技術を活用した各種取り組みを推し進めることにより、さらなる生産性向上を図りました。

売上収益



※1 3月期決算の連結対象会社は9カ月間、12月期決算の連結対象会社は12カ月間の変則決算となっています。
 ※2 当社グループは、2019年12月期よりIFRSを任意適用しており、2019年12月期との比較のため、2018年12月期の数値もIFRSに準拠して表記しています。

米州

事業環境と業績概要

売上収益は前期比21.1%減少し、460億円となりました。

米州では、産業機器事業におけるエレクトロニクス関連を中心に需要に回復の動きが見られた一方、輸送機器事業においては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、主に2020年4~6月期における当社製品の生産、出荷に影響が生じました。これらの結果、減収となりました。

2020年12月期の取り組み

● 販売面

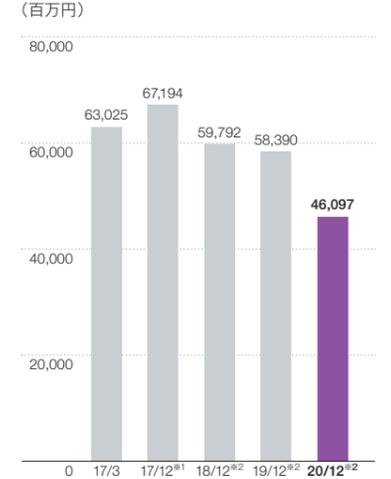
産業機器事業において、既存顧客の深耕、幅広い顧客向けの販売拡大、そして

競合奪取によるシェア拡大を図るとともに、コロナ禍におけるオンラインによる販売活動の強化に努めました。さらに、医療機器向けをはじめ、新規分野における営業活動を積極化し、新たな需要の創出を図りました。

● 生産面

業界で唯一、北米に生産拠点を持つ強みを最大限に活かし、客先要求に対応した生産活動を進めるとともに、さらなる自動化・ロボット化やITツールの活用を推し進め、生産性向上を図りました。

売上収益



※1 3月期決算の連結対象会社は9カ月間、12月期決算の連結対象会社は12カ月間の変則決算となっています。
 ※2 当社グループは、2019年12月期よりIFRSを任意適用しており、2019年12月期との比較のため、2018年12月期の数値もIFRSに準拠して表記しています。

欧州

事業環境と業績概要

売上収益は前期比30.0%減少し、376億円となりました。

産業機器事業においては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、3月中旬から4月中旬にかけて一部の事業所で操業を停止しました。輸送機器事業においては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、主に2020年4~6月期における当社製品の生産、出荷に影響が生じました。これらの結果、減収となりました。

2020年12月期の取り組み

● 販売面

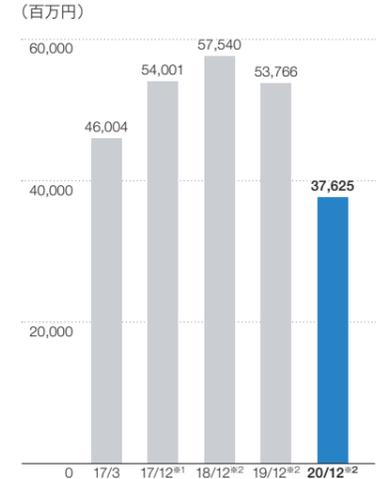
産業機器事業において、既存顧客の深耕に加え、幅広い顧客向けの販売拡大に

向けた各種取り組みを積極化させるとともに、医療関連、食品関連、航空機/鉄道関連、ロボット関連などの新規分野における競合奪取に向けた取り組みを加速させました。加えてコロナ禍におけるオンラインによる販売活動の強化に努めました。

● 生産面

レイアウト変更や新たな機械の導入などによる自動化・ロボット化を推し進め、生産性向上を図りました。加えて、社員への品質に関する教育の徹底や検査データの自動取込みによる加工プログラム補正など、品質管理体制のさらなる強化を図りました。

売上収益



※1 3月期決算の連結対象会社は9カ月間、12月期決算の連結対象会社は12カ月間の変則決算となっています。
 ※2 当社グループは、2019年12月期よりIFRSを任意適用しており、2019年12月期との比較のため、2018年12月期の数値もIFRSに準拠して表記しています。

中国

事業環境と業績概要

売上収益は前期比9.7%増加し、340億円となりました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、産業機器事業、および輸送機器事業の各事業所は、春節(旧正月)休暇明けから2月中旬にかけて操業を停止しました。しかしながら、その後は中国において他の地域に先んじて経済活動が再開される中、需要が回復しました。これらの結果、増収となりました。

2020年12月期の取り組み

●販売面

新たな領域を徹底的に攻略すべく、メーカー営業の強みを活かした様々な取

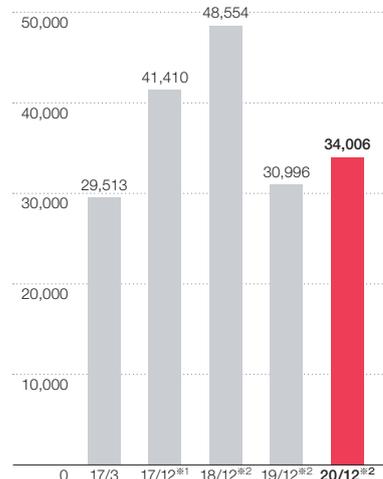
り組みを推し進めた結果、コロナ禍で厳しい時期において減収幅を抑制するとともに、期の後半に急回復した需要を着実に取り込むなどの成果へと繋がりました。さらに、幅広い顧客向けの販売拡大を図るべく、代理店販売網の拡充やOmni THKのさらなる活用を推進しました。

●生産面

各工程における自動化・ロボット化の推進や、IoTを活用したデータ集計・分析などにより、さらなる生産性の向上を図りました。加えて激しく変化する外部環境にフレキシブルに対応できる生産体制の構築を図りました。

売上収益

(百万円)



※1 3月期決算の連結対象会社は9カ月間、12月期決算の連結対象会社は12カ月間の変則決算となっています。

※2 当社グループは、2019年12月期よりIFRSを任意適用しており、2019年12月期との比較のため、2018年12月期の数値もIFRSに準拠して表記しています。

アジア他

事業環境と業績概要

売上収益は前期比24.6%減少し、165億円となりました。

インド・ASEANをはじめとして当社グループ製品への需要の裾野が着実に広がる中、当社グループにおいては販売網の拡充に加え、新規顧客を開拓すべく積極的な営業活動を展開しました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響などにより、全般的に需要が低位に推移した結果、減収となりました。

2020年12月期の取り組み

●販売面

台湾では既存顧客の深耕と間接販売網の強化に加え、医療、食品、梱包関連など

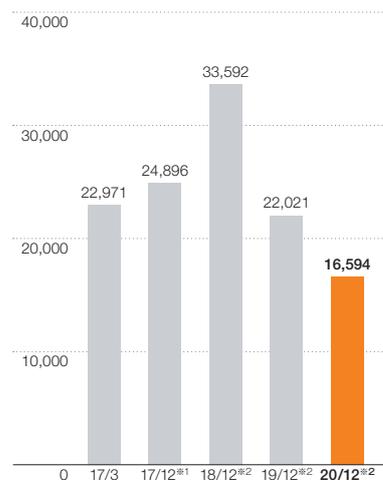
の新規分野の需要の開拓に努めました。ASEANでは幅広い顧客向けの販売拡大を図るべく、Omni THKやテクニカルサポートサイトの活用を推進しました。さらに、コロナ禍においても、電動アクチュエータの拡販に向け、オンラインセミナーを含めた各種取り組みを進めました。

●生産面

各工場の生産工程における自動化・ロボット化の推進により、さらなる生産性の向上を図りました。中長期的な需要拡大が見込まれるインドにおける新工場はコロナ禍や需要動向を踏まえ2021年夏に稼働を延期しました。

売上収益

(百万円)



※1 3月期決算の連結対象会社は9カ月間、12月期決算の連結対象会社は12カ月間の変則決算となっています。

※2 当社グループは、2019年12月期よりIFRSを任意適用しており、2019年12月期との比較のため、2018年12月期の数値もIFRSに準拠して表記しています。